

## なかつがわ全市景気ウォッチャー調査

〈市内の景気の動向を接客や取引を通じて肌で感じている人たちによる客観的な景況感調査〉

### 平成22年1月調査結果

現在の景気の現状判断は、デフレなどの影響により、先月に比べ4.0%ポイント下げてDI値が19.8%ポイントと、非常に厳しさが増す判断となっています。特に、家計動向関連の飲食観光関連で11.9%ポイント悪化の20.8%ポイントと非常に厳しい状況になりました。

また、雇用関連では3.6%ポイントと小幅な悪化に留まり、28.6%ポイントと厳しい状況が続く現状判断となっています。

次に1年前と比べた場合の景気の現状判断は、4.1%ポイント改善しDI値29.1%ポイントとなり、全ての項目で改善傾向を示しています。特にサービス関連で10.7%ポイント改善し、28.6%ポイントとなり、雇用関連でも、10.7%ポイント改善し35.7%ポイントと、非常に厳しい状況から脱する現状判断となっています。

また、3ヶ月前と比べた場合の景気の現状判断では、先月より2.4%ポイント悪化し、33.2%ポイントで、サービス関連で10.8%ポイント、飲食観光関連が9.6%ポイント下げ、非常に厳しい状況になりつつあります。また雇用関連は50.0%ポイントに回復する現状判断となっています。

さらに3～6ヶ月先の景気の先行き判断は、先月に引続き小幅ながら1.1%ポイント改善を見込み35.5%ポイントになり、特に家計動向関連では、32.4～35.7%ポイントとほぼ近い水準を予想する結果となりました。

◎全体的には、消費の低迷、低価格志向や節約志向により、悪化傾向を示していますが、先行きについては極端な落込みが見込まれておらず、緩やかな改善傾向に戻るものと思われます。

また、雇用関連はやや厳しい状況が緩和され、一定の落ち着きを示しながら回復していくものと思われます。

平成22年2月12日

なかつがわ全市緊急経済対策本部

# 調査の概要

## ○調査の目的

市内の景気の動向に関連のある人々の協力を得て、市内の景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とする。

## ○調査の対象

- 1 対象地域 市内全域
- 2 調査客体  
家計動向、雇用等の代表的な経済活動に携わる、さまざまな業種の方々、45名

## ○調査事項

- 1 景気の現状に対する判断（方向性）
- 2 1の理由
- 3 2の追加説明及び具体的状況の説明
- 4 景気の先行きに対する判断（方向性）
- 5 4の理由

## ○調査の時期

調査は毎月、当月時点で、調査期間は毎月25日から月末まで(今回は2月3日まで)

## ○有効回答率

95.6% 有効回答客体 43名

## ○判断方法

日本銀行で発表している「主要(全国)企業短期経済観測調査」いわゆる「日銀短観」や内閣府で発表している「景気動向指数」に使われている経済指数をディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)略して「D I」といいます。

「D I」には、「日銀短観」で使われる単純に3つの選択肢、たとえば「良い」、「変わらない」、「悪い」を用意し、回答から%を求め「良い」の%から「悪い」の%を引いた指数(%ポイント)が0を境に0以上になれば景気回復、0以下になれば景気後退を示す方法と「景気動向指数」のように3つ以上の選択肢を用意し、その選択肢に均等に0~1の評価点を与え、それぞれの回答から%を求めそれぞれの評価点を乗じたものの合計を指数(%ポイント)として50を境に50以上になれば景気回復、50以下になれば景気後退を示す方法の二つが主に使われています。

前者に比べ後者の方が選択肢が幅広くなり、より正確な指数を得ることができます。

今回の調査は、選択肢を5つ用意していますので、「景気動向指数」と同じ後者の方法で判断するものとします。

### 1 D I 値の算出方法

5段階の判断にそれぞれ以下の点数を与え、これらに各判断の構成比(%)を乗じて、D I 値を算出する。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価点	1	0.75	0.5	0.25	0

## 2 DI値について

DI値が50の場合は横ばいを示し、0に近づくほど景気後退傾向、逆に100に近づくほど景気回復傾向であることを示す。

100 ←                      50                      →                      0  
 良くなっている                      変わらない                      悪くなっている

例えば

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
調査結果	8	9	9	10	9
構成比(%)	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各DI値	17.8	15	10	5.6	0
DI値(合計)	48.4		⇒	ほんの少し景気が後退している	

となります。

## 調査の結果

### 1 現在の景気の現状判断

現在の景気の現状判断としては、デフレなどの影響により、先月に比べ4.0%ポイント下げてD I値が19.8%ポイントと、非常に厳しさが増す判断となっています。

内訳では、家計動向関連で飲食観光関連が観光のオフシーズンであることから11.9%ポイント下げ、20.8%ポイントと急激に非常に厳しい状況を示し、逆に小売関連で1.2%ポイント、サービス関連で3.6%ポイント戻しましたが、いずれも非常に厳しい状況が続く現状判断となっています。

また、雇用関連では、28.6%ポイントと3.6%ポイントの小幅な悪化に留まり、厳しい状況が続く現状判断となっています。

表1 1月構成比

	良い	やや良い	どちらとも 言えない	やや悪い	悪い	未回答	D I 値
合計	0.0	2.3	20.9	30.3	46.5	0.0	19.8
家計動向関連	0.0	2.8	16.7	30.5	50.0	0.0	18.1
小売関連	0.0	0.0	5.9	47.1	47.0	0.0	14.7
飲食観光関連	0.0	8.3	16.7	25.0	50.0	0.0	20.8
サービス関連	0.0	0.0	42.9	0.0	57.1	0.0	21.5
雇用関連	0.0	0.0	42.9	28.6	28.5	0.0	28.6

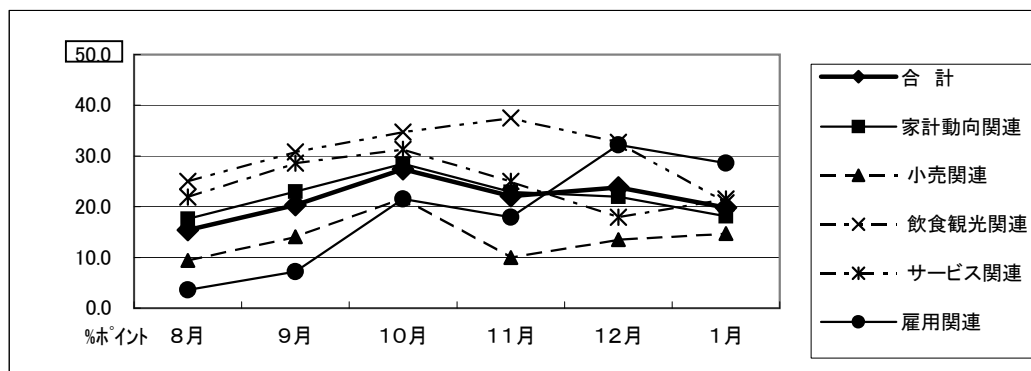
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良い	やや良い	どちらとも 言えない	やや悪い	悪い	未回答	D I 値
2009	8	0.0	2.3	11.3	27.3	56.8	2.3	15.4
	9	2.3	4.7	6.9	44.2	41.9	0.0	20.3
	10	0.0	7.0	27.9	32.6	32.5	0.0	27.4
	11	2.4	11.9	2.4	38.1	45.2	0.0	22.1
	12	0.0	2.5	22.5	37.5	35.0	2.5	23.8
	1	0.0	2.3	20.9	30.3	46.5	0.0	19.8
	(前月差)	(0.0)	(-0.2)	(-1.6)	(-7.2)	(11.5)	(-2.5)	(-4.0)

表3 景気の現状判断D I 値

	2009年					2010年	
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	(前月差)
合計	15.4	20.3	27.4	22.1	23.8	19.8	(-4.0)
家計動向関連	17.6	23.0	28.5	22.9	22.0	18.1	(-3.9)
小売関連	9.4	14.1	21.7	10.0	13.5	14.7	(1.2)
飲食観光関連	25.0	30.8	34.7	37.5	32.7	20.8	(-11.9)
サービス関連	21.9	28.6	31.3	25.0	17.9	21.5	(3.6)
雇用関連	3.6	7.2	21.5	17.9	32.2	28.6	(-3.6)



## 2-1 1年前と比べた場合の景気の現状判断

1年前と比べた場合は、先月と比べ4.1%改善して29.1%と、非常に厳しい状況を脱する現状判断となっています。

内訳では、小売関連で0.4%改善の23.5%と非常に厳しい状況が続くものの、サービス関連で10.7%改善の35.7%、飲食観光関係も2.6%改善して、非常に厳しい状況から脱する結果となりました。

また、雇用関連も10.7%改善の35.7%とこちらも非常に厳しい状況を脱する現状判断となっています。

表1 1月構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
合計	0.0	9.3	27.9	27.9	32.6	2.3	29.1
家計動向関連	0.0	8.3	25.0	30.6	33.3	2.8	27.8
小売関連	0.0	0.0	29.4	35.3	35.3	0.0	23.5
飲食観光関連	0.0	16.7	16.7	33.3	25.0	8.3	33.4
サービス関連	0.0	14.3	28.6	14.3	42.8	0.0	28.6
雇用関連	0.0	14.3	42.8	14.3	28.6	0.0	35.7

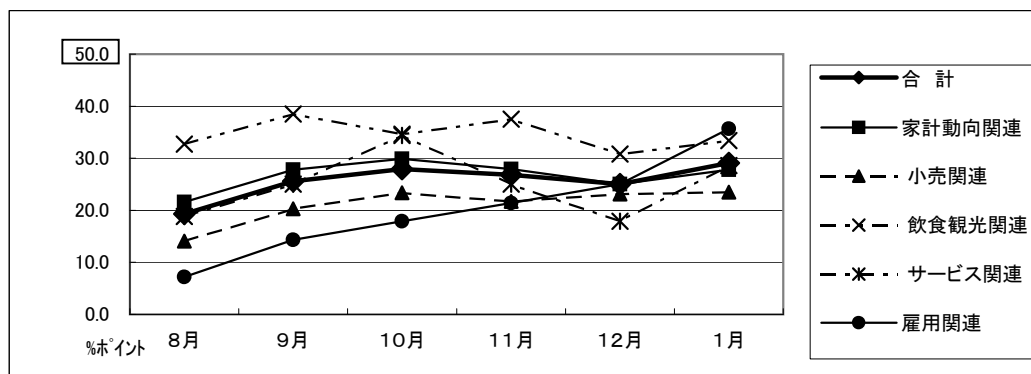
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
2009	8	0.0	9.1	13.6	22.7	54.6	0.0	19.3
	9	4.7	2.3	20.9	34.9	37.2	0.0	25.6
	10	0.0	7.0	27.9	34.9	30.2	0.0	27.9
	11	4.8	2.4	19.0	42.9	30.9	0.0	26.8
	12	0.0	2.5	25.0	42.5	30.0	0.0	25.0
	1	0.0	9.3	27.9	27.9	32.6	2.3	29.1
	(前月差)	(0.0)	(6.8)	(2.9)	(-14.6)	(2.6)	(2.3)	(4.1)

表3 景気の現状判断D I 値

	2009年					2010年	
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	(前月差)
合計	19.3	25.6	27.9	26.8	25.0	29.1	(4.1)
家計動向関連	21.6	27.8	29.9	27.9	25.0	27.8	(2.8)
小売関連	14.1	20.3	23.4	21.7	23.1	23.5	(0.4)
飲食観光関連	32.7	38.5	34.6	37.5	30.8	33.4	(2.6)
サービス関連	18.8	25.0	34.4	25.0	17.9	28.6	(10.7)
雇用関連	7.2	14.3	17.9	21.4	25.0	35.7	(10.7)



## 2-2-1 3ヶ月前と比べた場合の景気の現状判断

3ヶ月前と比べた場合は、先月より2.4%ポイント悪化の33.2%ポイントと調査開始の8月以来悪化が続く、厳しい現状判断となっています。

原因としては、先月13.9%ポイント改善したサービス関連が10.8%ポイント下げ、飲食観光関連も観光がオフシーズンのため9.6%ポイント下げたため、非常に厳しい状況になりつつありますが、小売関連は4.5%ポイント改善する結果となりました。

また、雇用関連は、先月より3.6%ポイント改善の50.0%ポイントとやや厳しい状況から回復の兆しが見える結果となっています。

表1 1月構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
合計	0.0	4.7	46.5	20.9	25.6	2.3	33.2
家計動向関連	0.0	2.8	41.7	22.2	30.5	2.8	29.9
小売関連	0.0	0.0	58.8	23.5	17.7	0.0	35.3
飲食観光関連	0.0	8.3	16.7	25.0	41.7	8.3	25.0
サービス関連	0.0	0.0	42.9	14.3	42.8	0.0	25.0
雇用関連	0.0	14.3	71.4	14.3	0.0	0.0	50.0

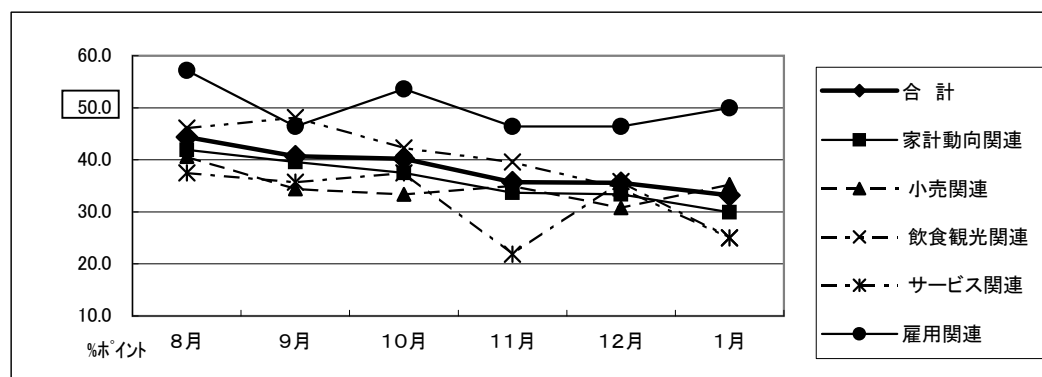
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
2009	8	0.0	20.5	47.7	20.5	11.3	0.0	44.4
	9	2.3	11.6	48.9	20.9	16.3	0.0	40.7
	10	2.4	9.3	46.5	30.2	11.6	0.0	40.2
	11	2.4	9.5	33.3	38.1	16.7	0.0	35.7
	12	0.0	15.0	35.0	27.5	22.5	0.0	35.6
	1	0.0	4.7	46.5	20.9	25.6	2.3	33.2
	(前月差)	(0.0)	(-10.3)	(11.5)	(-6.6)	(3.1)	(2.3)	(-2.4)

表3 景気の現状判断D I 値

	2009年					2010年	
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	(前月差)
合計	44.4	40.7	40.2	35.7	35.6	33.2	(-2.4)
家計動向関連	41.9	39.6	37.5	33.7	33.4	29.9	(-3.5)
小売関連	40.6	34.4	33.4	35.0	30.8	35.3	(4.5)
飲食観光関連	46.1	48.1	42.3	39.6	34.6	25.0	(-9.6)
サービス関連	37.5	35.7	37.5	21.9	35.8	25.0	(-10.8)
雇用関連	57.2	46.4	53.6	46.4	46.4	50.0	(3.6)



## 2-2-2 3ヶ月前と比べた場合の景気の判断理由

判断の理由として家計動向関連の小売関連では、来客数の減少から「来客数の動き」が58.8%と高く、続いて、安価なものしか売れないなどの理由から「単価の動き」が41.2%となっています。

飲食観光関連でも、観光客の減少から「来客数の動き」が75.0%と先月と同じく、突出して大きくなっています。

サービス業関連でも、来客数の減少から「来客数の動き」が57.1%と大きく、次に、来店者の行動から「お客様の様子」が42.9%となっています。

次に、雇用関連では、企業の景気状況などから「周辺企業の様子」が71.4%と高く、次に、有効求人倍率や求人状況から「求人数の動き」が57.1%となっています。

	①来客数の動き	②販売量の動き	③単価の動き	④お客様の様子	⑤競争相手の様子	⑥それ以外
家計動向関連	63.9	25.0	22.2	27.8	5.6	2.8
小売関連	58.8	29.4	41.2	23.5	11.8	5.9
飲食観光関連	75.0	33.3	8.3	25.0	0.0	0.0
サービス関連	57.1	0.0	0.0	42.9	0.0	0.0

	①求人数の動き	②求職者数の動き	③採用者数の動き	④雇用形態の様子	⑤周辺企業の様子	⑥それ以外
雇用関連	57.1	28.6	14.3	28.6	71.4	0.0

※複数回答による割合

### 3 3～6ヶ月先の景気の先行き判断

景気の先行きについては、先月に引続き小幅ながら1.1%ポイント上げ35.5%と改善を見込む予想となっています。

内訳は、小売関連が4.2%悪化の32.4%に対し、飲食観光関連が6.5%戻して33.4%になり、サービス関連は、変わりなく35.7%と厳しい状況にはあるものの家計動向関連として、ほぼ近い水準を予想する結果となっています。

また、雇用関連では、先月より3.5%上げて46.4%とやや厳しい状況ながら回復に近づく予想となっています。

表1 1月構成比

	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	未回答	D I 値
合計	2.3	4.7	44.2	25.6	20.9	2.3	35.5
家計動向関連	2.8	2.8	41.6	25.0	25.0	2.8	33.4
小売関連	0.0	0.0	47.1	35.3	17.6	0.0	32.4
飲食観光関連	8.3	8.4	25.0	25.0	33.3	0.0	33.4
サービス関連	0.0	0.0	57.1	0.0	28.6	14.3	35.7
雇用関連	0.0	14.3	57.1	28.6	0.0	0.0	46.4

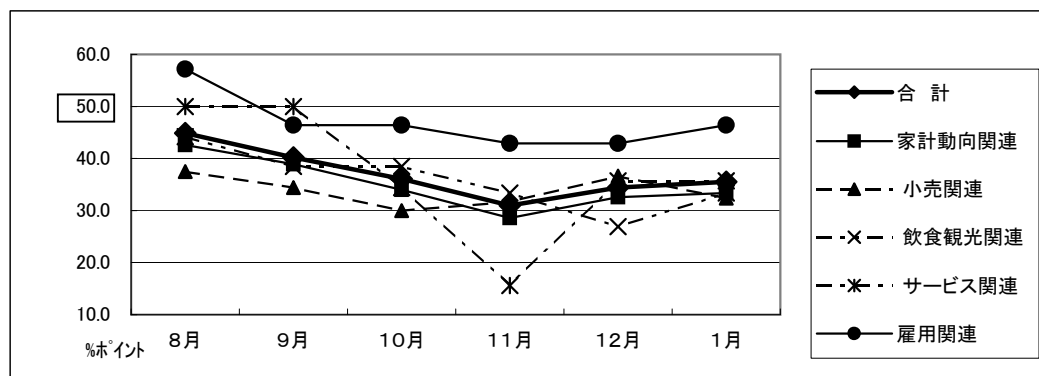
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	未回答	D I 値
2009	8	2.3	18.2	47.7	15.9	13.6	2.3	44.9
	9	0.0	14.0	41.9	34.8	9.3	0.0	40.2
	10	0.0	7.0	46.5	30.2	16.3	0.0	36.1
	11	0.0	7.1	31.0	35.7	23.8	2.4	31.0
	12	0.0	7.5	37.5	35.0	17.5	2.5	34.4
	1	2.3	4.7	44.2	25.6	20.9	2.3	35.5
	(前月差)	( 2.3)	(-2.8)	( 6.7)	(-9.4)	( 3.4)	(-0.2)	( 1.1)

表3 景気の先行き判断D I 値

	2009年					2010年	
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	(前月差)
合計	44.9	40.2	36.1	31.0	34.4	35.5	( 1.1)
家計動向関連	42.6	38.9	34.0	28.6	32.6	33.4	( 0.8)
小売関連	37.5	34.4	30.0	31.7	36.6	32.4	(-4.2)
飲食観光関連	44.2	38.5	38.5	33.4	26.9	33.4	( 6.5)
サービス関連	50.0	50.0	34.4	15.6	35.7	35.7	( 0.0)
雇用関連	57.2	46.4	46.4	42.9	42.9	46.4	( 3.5)



景気の現状判断の理由

分野	景気判断		調査対象	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
	3ヶ月前	1年前				
家 計 動 向 関 連	やや良くなっている	やや良くなっている	スナック	販売量の動きとお客様の様子	・会社の方が3ヶ月前よりも、仕事が少しながら増えて来ているか、現状維持の話をしている様子がうかがえます。	
	変わらない	やや良くなっている	金融機関	お客様の様子	・自動車部品関連企業は、昨年1～3月が最悪期であり、その時期に比べれば受注は回復しているが、本格的な回復とまでは至っていない。	
	変わらない	変わらない	小売店	来客数と販売量の動き	・平日の来客数の減少が見られ、販売量に影響が感じられる。	
			小売店	来客数の動き	—	
			小売店	来客数の動き	・1年前と比べて来客数がへっている。	
			スーパー	来客数の動き	・来客数が減っています。	
			スーパー	単価の動き	—	
			レストラン	来客数の動き	・年末年始の休み期間が短く、また降雪の為、客足が鈍り今月は低調でしたが、潜在的なニーズのおかげで前年対比では変わらない状況でした。	
			金融機関	お客様の様子	・新社会人の準備の為の話が出てこない。(自動車購入資金など) 建築業者は、新築よりリフォームの方向になっている。	
			理容室	お客様の様子	—	
			やや悪くなっている	やや悪くなっている	商店街関係者	お客様の様子
	小売店	来客数の動き			・十日市の人出は日曜日にかさなって多かったようですが、その他の日、特に土・日の来客数が少ない。	
	家電販売店	来客数、販売量と単価の動き			・単価は前年よりまちがいなく、下っている。台数アップで、なんとかもったのがテレビ、その他はやはり客数ダウンがあるが、客単価がUPしているだけなんとか、前年に近い売上をたもっているようだ。	
	悪くなっている	悪くなっている			商店街関係者	単価の動き
			自動車販売	来客数の動き	・来客数が少ない。 ・値段の安い物しか売れない。(50万以下)	
			旅行代理店	来客数と販売量の動き	・来客数、販売量ともに減っている。(旅行センターのカウンター(受付)にみえる様子から)	
	やや悪くなっている	やや良くなっている	居酒屋	来客数と単価の動き	—	
			やや悪くなっている	小売店	販売量、単価の動きとお客様の様子	—
					単価の動きと競争相手の様子	・売上単価が少ない。
			スーパー	来客数、単価の動きとお客様、競争相手の様子	—	
道の駅			来客数の動き	・名古屋、トヨタ方面のお客が少ない。		

		レストラン	販売量の動き	・売上高が、前年を大きく下回るとともに、客数、客単価とも過去に例を見ないほど減少している。	
		美容室	お客様の様子	・客数が少なく、単価も少ない。	
	悪くなっている	商店街関係者	来客数と販売量の動き	・天候によって来客数の変動が著しくちがう。必要な物意外は買わなくなった。	
悪くなっている	変わらない	観光案内所	来客数と販売量の動き	・観光客の減少。	
	やや悪くなっている	飲食店	来客数の動きとお客様の様子	・昼の来客数に変化はないが、夜の人出がまったく少ない様です。	
	悪くなっている	商店街関係者	—	・商店主等、現場の意見を集約。	
		小売店	単価の動き	・1人あたりの単価が少なくなっている。	
		小売店	来客数、販売量の動きとお客様の様子	・この時期は例年よくないが、年々悪くなっているような気がする。	
		道の駅	来客数の動き	・天候にも左右されていると思うが、極端に客足が遠のいている。	
		旅館	来客数の動き	・宿泊者数の激減。	
		福祉施設	来客数の動き	・お店のお客さんの入りが少ない様に思います。	
		タクシー運転手	来客数の動き	・自家用車での駅への迎えが多くなっている。これは、各家庭への状況も現れている。	
		タクシー運転手	来客数の動き	・今年に入ったから、かなり乗客数が減少。	
		—	旅館	来客数の動き	—
	—	やや悪くなっている	レストラン	来客数と単価の動き	・客単価、来客数の低下が続いている。
雇用関連	やや良くなっている	悪くなっている	自治体労働政策担当	求人数、求職者数と採用者数の動き ・有効求人倍率の推移 H20. 12⇒1.09 H21. 10⇒0.61 H21. 12⇒0.72	
	変わらない	やや良くなっている	労働相談所	周辺企業の様子 ・昨年1月はリーマンショックで仕事なくなった時、それとの比較では良くなっている。但し、3ヶ月前と比し変化はない。ただし、仕事量に関しては2極化している。	
		変わらない	職業安定所	求人数、求職者数の動きと周辺企業の様子 ・新規求職者は、20年5月以来の前年同月比でマイナス(12.3%減)と大巾に減少した。しかし、求人数も減少している状況から、雇用環境が改善傾向にあるとまでは言えない。	
			労働金庫	周辺企業の様子 ・新しい事業展開が無い、明るい材料がない。	
			学校就職担当	雇用形態の様子 ・求人活動も終わり、企業担当者と直接話をする機会が無くなってしまったので現在の状況がわからない。新卒採用は年齢構成の是正のため採用であるので、景気が良いから採用とならないから。	
		悪くなっている	学校就職担当	求人数の動きと周辺企業の様子 ・高卒者、対象の求人が全くない。	
やや悪くなっている	やや悪くなっている	人材派遣会社	求人数の動きと雇用形態、周辺企業の様子 ・正規・非正規とも求人・求職も減少気味、今年も厳しい雇用情勢が続く恐れがある。業務の対応として社内ローテーション、パート、アルバイトが顕著に表われている。		

景気の先行き判断の理由

分野	景気の判断	調査対象	追加説明及び具体的状況の説明
家 計 動 向 関 連	良くなる	観光案内所	・観光客の増加と毎年の傾向から。
	やや良くなる	飲食店	・良くなる様に色々とアイデアを出して各店がガンバルしかないのでは。
	変わらない	商店街関係者	・すでに底状態だと思うので、このまま推移すると思う。
		商店街関係者	・進学・就職のシーズンをむかえるが、就職先の減少で良くなる気配も期待薄の感がある。
		小売店	・景気上昇に関するものが、見えてこない、感じられない。
		小売店	・良くなる理由が見当たらない。
		スーパー	—
		スーパー	—
		家電販売店	・テレビ以外に伸びを期待できるものがない、エコポイント延長などもあり、売上は上るとは思うが、単価ダウンも進んでいく。
		自動車販売	・売上、昨年比ダウンしている。
		レストラン	・外食の消費は当分向上が見込めない。
		レストラン	・今が底だと思われるが、先行き不透明である。
		スナック	・悪くなる所もあるし、やや良くなる所もあるので変わらないかもしれないです。でも、皆さん企業それぞれで新しい開発をしたり、前向きな会社もお客様の中にはあり、努力してあきらめないのが、私達にも勇気を与えてもらっています。
		金融機関	・内需による景気の回復は見込めず、中国、インドをはじめとした海外への依存が益々高まると予想されるが、先行き感是不透明である。
	金融機関	・製造業等が若干残業があるものの、建築業界は変わらず状態が悪い、景気が良くなる要素が、様子がない。	
	タクシー運転手	・新年会では、マイクロバス等送迎が多く、タクシーの利用者が2次会、3次会へ行く事がなくなっている。	
	タクシー運転手	・相変わらず、町の活気のなさ、電車の乗降客のなさ。このままでは、町自体もいけない。	
	やや悪くなる	商店街関係者	—
	小売店	—	
小売店	・成長戦略の欠如。オーバーストア。		
小売店	・景気が上向くような材料が見当たらない。		
小売店	・より安い商品が売れている。		
スーパー	—		
道の駅	・良い材料（景気対策）が見あたらない。行政サービスも低下する一方で、財政難が大きく響いている。		
レストラン	・これから閑散期に入り、また外的な要因を受けやすい業種なので良くなる要素が見つからない。客単価が低下傾向にある。		

悪くなる	旅館	・4月以降の宿泊予約はあるものの、先行良くなるとは思えない。 (平成21年12月調査結果表紙のワクの中の◎印の文章通り。)	
	商店街関係者	・大企業の海外生産体制の強化により、国内の雇用が少なくなる。	
	小売店	・各家庭の所得が少なくなっていくと思う。	
	小売店	・よくなる材料が見あたらない。	
	道の駅	・景気の動きに敏感な経済中心部(都心)の不景気風が、一步遅れて過疎地に流れ込んでいる。	
	居酒屋	・あいさつのできん人が多いから。	
	旅館	—	
	旅行代理店	・予約数がかなり少ないです。(旅行センターのカウンター(受付)にみえる様子から)	
	美容室	・景気が良くなる要素がない。	
	福祉施設	・新聞やテレビのニュースをみていると景気が良くなる様子がないような気がします。	
—	理容室	—	
雇用 関 連	やや良くなる	自治体労働政策担当	・企業の求人数が増加しており、雇用状況は今後も改善が見込まれる。
	変わらない	職業安定所	・求職者は減少傾向であるが、求人数も同様であり、その動向は不透明である。
		労働金庫	・良くなる要素が見当たらない。
		学校就職担当	・3月までは現状通りであるが、4月以降についてはまだ未定であるという企業が多かった。生産計画が直前にならないと決定されないとされる。現状からして良くなる、良くなっているという現象が見られない。
		労働相談所	・良くなる材料が見当たらない。 ・その他、市は調査結果にもとづき、新年度予算編成で経済対策としての新規施策を打ち出す必要がある。そのための調査であることを忘れてはならない。打ち出して、はじめて仕事をしたことになる。
	やや悪くなる	学校就職担当	・現時点での経済状況を報道等で見聞きしたかぎりでは、経済状況が好転する要素はないように思います。
人材派遣会社		・景気の一部持ち直しの動きがみられるものの、先行き不透明が漂っており、各企業とも雇用については、慎重を期している。自動車・電子関係で一部求人の動きがあるも、その他は皆無。	